

「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録 (代表一覧表記載)に当たっての松野博一文部科学大臣談話

「山・鉾・屋台行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことは大変喜ばしいことであり、各地で「山・鉾・屋台行事」の保護・継承に取り組んでこられた関係者の皆様にお祝い申し上げます。

今回の登録は、平成21年に登録された「京都祇園祭の山鉾行事」と「日立風流物」に、31件の国指定無形民俗文化財を新たに加え、33件の「山・鉾・屋台行事」として一括して提案し、認められたものです。すでに認知度のある祇園祭をはじめとする2つの行事はもとより、新たな行事が追加されたことによって、日本の各地域の無形文化遺産の豊かな特色を証明できましたことを嬉しく思います。

今回の登録により、担い手が誇りを持ち、各地における保護・継承の取組が一層促進されるとともに、国内外に向けて積極的に発信されることにより、地方創生にもつながることが期待されます。

文部科学省としては、「山・鉾・屋台行事」が各地域で次世代に着実に継承されるとともに、地域の活力向上につながるよう、しっかりと取り組んでまいります。